トピックス

カナダと私(1)

紫沼喜久子

一九六七年、私は半年前に赴任した夫を追って、三人の娘をつれてバンクーバーに飛び立った。それは私にとって初の大旅行だった。「カナダという名はおそらくヒューロン語（インディアン語の一つ）のカナダから来たのだろうと言われている」、と聞いたのはかなり後であるが、その頃の私にとってカナダはただただ遠い、かなたの国であった。それから七年近く、私は一主婦としてカナダで暮すことになった。

× × ×

カナダに着いて四、五日して、子供たちがようやく時差の調整ができたところで、近くの公立小学校へ行った。長女は日本ですでに一年生を終えていたが、校長先生の勧めで、今学年が終る夏までもう一度一年生のクラスに入れてもらうことになった。英語の力さえつけば、年令相応の学年にスキップさせてくれるという。実際、二年半後にはそうなった。次女はそこの付属幼稚園に行くことに決まった。

急に雨が降り出した日のことである。傘を持って迎えに行った私は、幼稚園の玄関で先生のミセス・ブレオーに会った。「ちょうどよかった。ちょっと教室に来ませんか」とおっしゃる。美しい銀髪の、いかにも経験豊かな目をした先生は、毎朝うちの子に名前と住所をたずね、言わせてみていること、そして昨日から「サンキュー」という言葉を教え始めていること等を、手短かに話された。

帰りに廊下の扉の所まで来た時、たまたま一人の男の子が通りかかった。彼は先生の姿が目に入るとつかつかと扉に走り寄り、満身の力をこめてその重い扉を開けてくれたのだ。それはいじらしいというよりはむしろ、いつかはナイトたるべく躾けられている幼ない紳士という感じであった。先生は急ぎもせず、悠々と「ありがとう、〇〇君」と言って通り、彼の口から「ユー・アー・ウエルカム――どう致しまして」という言葉がもれると、待っていましたというようににっこりほほえみ返された。

小学校の授業風景

こういう社会訓練が幼稚園に課せられている大切なレッスンだったのである。カナダの生活に落ち着けば落ち着くほど、他人はもとより、親子、夫婦、兄弟の間でさえもこの短い挨拶の言葉が皆の生活と心の中にしみとおっている事に気がついた。あまり理屈っぽく考えるとカナダ人に笑われるかもしれないが、ここまで根づいているこういう挨拶、というよりそのスピリットはある時忽然と流行し出したものではなく、相手を尊重し合う長い歴史の中から生れた、もっと深い人間関係であるにちがいない。

× × ×

昨日と同じように、朝食を終えて十分もすると、隣りのキムは長女を誘いに、そのもう一軒隣りのコリーンは次女を誘いに寄ってくれた。本当にありがたい。おかげで登校拒否というようなことで困らないですんでいる。

学校から帰ってきた長女が言うのに、「皆ね、おやつに生の人参なんて持ってくるのよ、ママ。セロリの人もいるけど、私も明日人参持っていこうっと。いいでしょ？」「ええ、なまのを？」私達二人に下の子も加わって、台所で親子四人、たて割りにした人参をうさぎよろしく噛ってみる。思ったより甘い。青くさくもない。でもやっぱり生まは生までなじめない。娘もかじってみて「わたしはやっぱりりんごでいいわ」と言って外に出て行った。

小学校は低学年といえども、授業は午後もある。授業は日本のように四五分というような小きざみでなく、午前の間に一回ゆっくり中休みのあるほかはぶっ通し続く。その間は先生のやり方にまかされているらしい。その休み時間のために軽いおやつを持って行くことが許されている。（日本に比べて遙かに子供達の歯の健康に留意されていて、甘いものを制限し、果物や生野菜をすすめている。）

お昼時になると、子供達が飛ぶようにして家へ帰っていくのが窓から見える。昼食は家に帰って食べる事に原則としてきめられているからだ。これは、昔、昼にディナーをとった家の多かった時代の名残りであるか、あるいは気分転換を含めた昼休みなのか、おそらくその両方であろう。

世界最初の砕氷貨物船 一九七八年に完成の予定

カナダは、世界最初の本格的な大型砕氷貨物船を建設することになった。二万八千トンのバラ積み船で、完成・就航は一九七八年の予定。建設費は三千九百万ドル。

同船は、完成すると「アークティック号」と命名され、二つの鉛・亜鉛鉱を開発中の北極海で運航することになる。また、将来北極海からカナダ南部に天然ガスや石油を運搬するのに必要なより大きな砕氷貨物船のプロトタイプともなる。運航は、政府が経営参加、資本協力するカナダの海運業者が当る。

人事往来

○レナード・コーエン（カナダのシンガー・ソングライター、詩人、小説家）、昨年十二月、米国で私淑している禅の師匠と京都へ。

○サンダーベイ・ツインズ・アイスホッケー・チーム、日本各地で試合（二月）。

○経済企画庁を中心とする、欧米各国の需要管理政策の管理および経済見通しの作製状況視察団、カナダへ（三月）。

本紙は、カナダ大使館から二カ月に一回発行されます。本紙掲載内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目二番二八号

カナダ大使館広報部